

〈巻頭言〉

刊行にあたって

日比野 典明

1994年採択されたユネスコ公共図書館宣言では、「社会と個人の自由、繁栄および発展は人間にとっての基本的価値である。このことは、十分に情報を得ている市民が、その民主的権利を行使し、社会において積極的な役割を果たす能力によって、はじめて達成される。（中略）地域において知識を得る窓口である公共図書館は、個人および社会集団の生涯学習、独自の意思決定および文化的発展のための基本的条件を提供する。」とその前文にあります。

さて、神奈川県立川崎図書館（ケンカワ）は、平成30年に川崎市高津区で、「ものづくり情報ライブラリー」の専門的図書館として移転・再開館しました。もともと、昭和33年に日本の戦後の成長を支えた横浜工業地帯で産声を上げたという経緯があり、工業の専門的図書館という看板もあったことから、所蔵図書約26万冊の内、6割以上が技術・工学・自然科学の図書です。

加えて、「電子ジャーナル」等により、国内外の工学や産業・技術などの学会などが発行する最新の学術雑誌に触れることもできます。

また、ものづくりには欠かせない、特許などの相談やセミナーなども実施していますので、実社会において役にたつことができる神奈川県ならではのユニークな図書館です。

ユネスコ公共図書館宣言に照らしてみると、当館ではどなたでも、技術・工学・自然科学や特許などの情報を得ることができ、それらをものづくりなどの自分の研究や仕事に活かすことができ、社会において積極的に役割を果たせることにつながり、そのことで神奈川県の文化的な発展にもつながっていくものと考えています。

この冊子「ものづくり文化」は、幅広い「ものづくり」という言葉の具体的な形を紹介したものです。今回は、平成になり大きく変化した「グッドデザイン賞」におけるものづくりの発展事例、環境負荷低減に資するものづくりを実行している株式会社TBMの取組み、神奈川県立川崎工科高等学校における「ミニ南武線」の製作と地域貢献を通じた、ものづくり教育の実践などを取り上げました。

この冊子をお読みいただいて、「ものづくり」に触れ、ケンカワを知り、ご利用いただくきっかけとなれば幸いです。

新しい場所でもうすぐ3年です。ぜひ多くの方にケンカワを知っていただき、使い倒していただきたいと思います。将来はノーベル賞受賞者にケンカワがきっかけだったと言っていただくような図書館を目指していきます。

ひびの・のりあき
（神奈川県立川崎図書館長）